

# ICCA Asia Pacific Summit 2019開催報告

## (2019年12月5-6日、ペナン・マレーシア)



ICCA日本会員とインターンシップ学生

国際会議協会 (ICCA) には国際会議ビジネスにかかわる約1,100団体が加盟していますが、そのうちアジアパシフィック部会には現在16か国・291団体が所属しており、ICCAの中でも最大の部会となっています。メンバー間の交流を深め、団結を強めていきたいという提案を受けて、初回の「ICCAアジアパシフィック・サミット」をマレーシア・ペナンで開催しました。

このサミットはペナン・コンベンションビューロー (PCEB)、地元PCOのAnderes Fourdy社、ICCAアジアパシフィック部会の共催イベントとして、ペナン州政府とICCAマレーシア部会の支援のもと、PCEB主催イベントBE@Penangとの併催により20ヵ国・約300名の参加者を迎えて盛大に開催されました。日本からも参加登録者16名・登壇者2名のほか、京都外国語大学の学生3名がインターンとして運営に加わり、日本の存在感を示すことができました。



**西本 恵子**  
Keiko Nishimoto, CMP

一般社団法人MICE総研(コングレグループ)で  
上席研究員として勤務するかたわら、京都大学経営  
管理大学院博士後期課程(D3)に在学中。2016年  
よりICCAアジアパシフィック部会担当理事。国際  
MICE業界でのネットワークを活かして、学生を対  
象としたMICEグローバル・インターンシップなどを  
企画・実施している。

### 開催までの経緯

アジアパシフィック・サミットの立ち上げは、2018年のICCA  
ドバイ総会で提案されました。その後、ICCAアジアパシ  
フィック事務局から出されたRFPに対して、12都市からプロポ  
ーザルが提出されました。いずれも魅力的な提案ばかりでし  
たが、ペナンが選定された要因としては、PCEBがこれまで  
3回にわたり自主事業BE Penangを開催しており十分な企画  
運営能力を証明できたこと、今回もBE Penangとの併催だっ  
たため共通コストの削減が見込めたこと、ICCAマレーシア  
部会メンバーや各種ステークホルダーに対するPCEBの細や  
かな配慮と、そのことで得られた強力なサポートなどが挙げ  
られます。

サミットには、各国・分野から40名の多様なスピーカーが招聘されました。運営の随所には遊び心もちりばめられて、さながらミニチュア版ICCA総会のごとく、成功裏に開催されました。

#### 会員の声

##### 中上 朗子 さん

(公財) 福岡観光コンベンションビューロー

ワークショップスタイルのプログラムに、楽しみながら参加することができました。ICCAのアジアパシフィック事務局がクアラルンプールにあることや、以前にICCA総会がクチンで開催されたこと、今回のサミットがペナンで開催されたこともあるかもしれませんが、マレーシアのICCA会員が、とてもアクティブに活動している印象を持ちました。

ICCA総会の時もそうでしたが、プレナリーの際の照明、映像やレセプションなど非常に凝っていて、日本で同じようにできるのだろうか？費用はどれほどかかるのだろうか？と思いました。このようなイベントはぜひ、日本の施設や運営会社の方々、行政の方々にも見ていただきたいですね。プレゼンテーションも非常によく作られたものを見せていただき、刺激になりました。

サミットの会場となったのは、Setia SPICE Convention Centerです。Setia社はマレーシアに本拠地を置く商業不動産会社で、現在はマレーシア・ベトナム・オーストラリア・シンガポール・中国・英国・日本で事業展開しています。同社は関西国際空港の対岸に2万㎡の用地を取得して、2024年にMICE施設を開業することになっており、日本のMICE最前線でもアジアの影響力が大きくなっていることを実感させられます。

## 会議ビジネスの未来

サミット初日には、ICCA会長James Rees氏（エクセル・ロンドン）が駆け付けて基調講演を行い、会議ビジネス産業におけるICCAの重要性や、アソシエーション系国際会議がもたらすレガシーを示すことの重要性について話しました。また、この産業が持続可能な発展を遂げていくためには、アソシエーションとの密接な連携が重要であることを強調しました。

続けて行われたRees会長とアジアパシフィック部会メンバーとの対話セッションでは、大学セクターの設立可能性や、存在感が高まり続ける中国市場について、活発な議論が行われました。

#### 会員の声

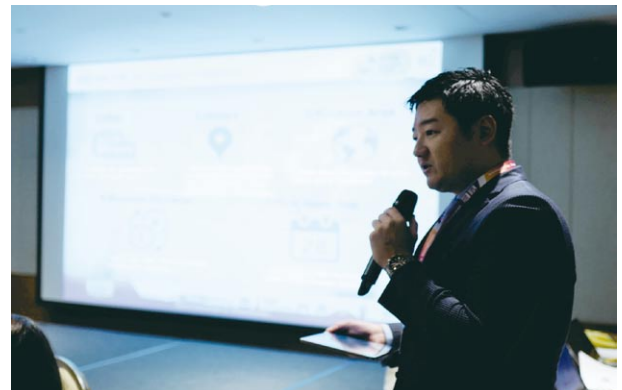
##### 岩田 由美子 さん

(公財) ちば国際コンベンションビューロー

ペナンはもちろん、マレーシア自体も実は初めてでしたが、ここ数ヶ月でシンガポール、バンコク、マカオを訪問して、アジア太平洋諸国のMICEの勢いは素晴らしいと思いました。振り返って日本が大分押されていると感じざるを得ません。ICCAはいわゆるassociation meetingに特化しているわけですが、そこに期待できるレガシーを含めてこの分野の会議が過小評価されているように思われます。Association meetingに対する市民、県民、自治体、国の評価を上げていくためには、主催者を支える関係者がまとまって声を上げていくことが必要でしょう。この機会にまず、この価値を一番身近で感じている国内のICCAメンバーからできることを探っていくべきと考えます。

## ローテーションから考え方と法則を読む

初日のセッション「Creativity in Research」では、(公財) 京都文化交流コンベンションビューローの松井良彰氏が登壇しました。



データベース活用の実績が認められたことで、今年5月にICCAのResearcher of the Month（リサーチ月間賞）を受賞したこと、また、高い誘致成功率を誇る京都がどのように情報を読み解き、誘致を行っているのかについて海外からの関心が高かったことから、日本人として初めての登壇者として選ばれました。

松井氏は過去の開催地から学会の考え方・法則を読み解く重要性について語りました。具体例を示しながら、「開催履歴・ローテーションを単に把握するのではなく、選考基準・パターンを読み解く」という話は、大いに参加者の興味を引きました。リサーチ方法を示す一方で、「観光魅力やユニークベニュー、エクスカーションを並べただけのBID PAPERを多く見てき

た。しかし、それはどの都市もやっていることで、差別化できない。開催地決定方法、意思決定者によっても、協調すべきポイントは変わってくる。誘致成功を10kmの道のりとすれば、リサーチでわかることは2km。残りの8kmは、主催者とコミュニケーションを取ることで。コミュニケーションによってあらゆる情報を把握し、最も適切な提案をすることが誘致成功の鍵となる。」と、リサーチ以外の重要性についても言及しました。

京都の高度な情報の読み方が垣間見えたことや、京都が観光魅力だけで誘致しているわけではないことは、ICCA ASIA Pacific会員にとって貴重な話となりました。

日本からはこのほか、(一社)MICE総研(コングレグループ)の西本恵子も登壇して、京都大学観光MBAのMICEグローバルインターンシップの実績や今後の予定について紹介しました。

## こんなところでも日本人が活躍!

初日のカクテルディナーのドレスコードはマレーシアらしく「バティック」。ベストドレッサーには賞が贈られます。バティックの服を持っていない人も、会場のロビーで購入することができるようになっていました。このコンテストでは、なんとパシフィコ横浜の村山さんと(公財)ちば国際コンベンションビューローの岩田さんがダブル入賞!こんなところでも、日本人が活躍する一コマとなりました。



### 会員の声

**村山 公美さん**  
パシフィコ横浜

10リングット値切って会場で購入したバティックで、まさかのコンテスト入賞してしまいました。地元スタイルで楽しめる仕掛けがあることで、一層、開催地への愛着がわきますね。

## サステナビリティへの取り組み

ペナンではMICE開催による収益の一部をウミガメ保護に充てるプログラムなど、サステナビリティへの取り組みが充実しています。また、中国本土ではすでにすたれてしまった風習が華僑の間で守り継がれて新たな文化が形成されていること、複数の民族が共存することで異なる価値観がぶつかりイノベーションが起きやすくなるなど、 destinationsそのものがサステナブルであるとも言えます。こうしたペナンでのMICE体験を、PCEBではexperience unfilteredと表現しています。

### 会員の声

**荻 麻里子さん**

(公財)札幌国際プラザ

VIEW YOUR OWN- 多様なAP地域において、MICE都市としてどのようなStoryをクリエイティブできるか、また、MICE終了後のLegacyについて、誰が責任をもって見守るのか、ビューローの役割を考える良い機会となりました。

初めてペナンを訪れましたが、グリーンステートとしての取り組み(ごみリサイクル率43%強)やグリーンビルディングインデックスの認証を取得している公式ホテル(Olive Tree Hotel)、ウミガメの保護のCSR活動など、MICEが取り組むサステナビリティを総合的に体感できる場であると感じました。

## 横浜グローバルMICEフォーラム

サミットの熱気は横浜にもつながります。2020年に新施設ノースをオープンするパシフィコ横浜では、アジアにおいて熱心にMICE振興に取り組み、成果を上げている国々の先進事例から業界展望と関連事業者との連携について考察する機会を得るため、第1回となる「横浜グローバルMICEフォーラム」を2月20日に開催予定です。サミットを成功裏に終えたばかりのペナンから、PCEB CEOのAshwin Gunasekeran氏をスピーカーとして招聘、今回のサミット開催に関連して、マレーシア・ペナンにおけるMICEビジネスの展望についての講演を行う予定となっています。また、高雄におけるICCA総会開催を11月に控えた台湾からJason Yeh(葉泰民)氏(ICCA理事、GIS Group CEO)もスピーカーとしてフォーラムに参加します。

横浜から日本を世界に発信する機会として、ご盛会をお祈りしています!